

令和 5 年度 東京都立王子総合高等学校 学校経営計画

校長 決定

A スクール・ミッション

社会の変化に主体的に対応し、社会や世界と関わり、生涯に渡って豊かに生きる力の育成を教育目標とし、総合学科の特色を生かした多様な選択科目の設置や体系的なキャリア教育を通じて、グローバルな視野で将来に渡って目標を追究し、その実現に向けて努力を続ける生徒を育成します。

B スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)

- ① 基本的な生活習慣の確立はもとより、ノーチャイム・ノー放送で自己管理能力を身に付けさせます。挨拶、ルール、モラル、マナー、エチケット等の指導を徹底し、規律向上の精神を育てます。
- ② 社会で生きて働く知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。
- ③ 主体的な学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。
- ④ 多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ上げ、表現・発信する力を育成します。
- ⑤ よりよい社会や人生の実現のために、学んだことを生かしながら多様な人々と協働して新たな価値を創造していく態度を育成します。

(2) カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)

- ① 総合学科高校必修科目の「産業社会と人間」を設置するとともに、大胆な科目選択制の教育課程を編成しています。
- ② 主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。
- ③ 教科・科目を 5 つの系列 (国際・ビジネス系列、文化・芸術系列、メディア・ネットワーク系列、サイエンス・テクノロジー系列、スポーツ・健康系列) に分類し、それぞれの系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた調和のとれた学習活動を実践します。

(3) アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針「期待する生徒の姿」)

本校は、総合学科高校としての特性を十分に生かしながら多様で幅広く設定した選択科目を生徒が主体的に選択し学習します。また、キャリア教育をはじめとした学習活動全般を通して、将来の進むべき道について真剣に考え、行動できる人材の育成を目指します。自身の可能性を伸ばし将来を切り拓いていこうとする意欲のある生徒の入学を期待しています。とりわけ、下記の特長を有する生徒の入学を求めています。

- 1 学習面において得意な教科があり、一層の伸長を図るとともに、その他の教科についても一生懸命努力していく生徒
- 2 生徒会活動・委員会活動・部活動・学校行事等で積極的に活動してきた実績があり、本校入学後もその実績を伸ばそうとする生徒
- 3 中学校において服装や生活態度等のルールやマナーがしっかりと守れていた生徒
- 4 地域活動や日本の伝統・文化に興味・関心を持ち、積極的に参加し活動する生徒
- 5 人間性豊かで他の人を思いやる心があり、良好な人間関係を築いていける生徒

C 令和 5 年度東京都立王子総合高等学校 学校経営戦略に基づき、以下に学校経営計画を策定する。

I 目指す学校

上記、スクール・ミッション並びに 3 つのスクール・ポリシーに基づき、生徒が、自分の生き方・在り方を主体的に考え、将来にわたって追究する夢を見いだし、その実現に向けた企画を実施する学校。

“Design Your Dream”

人生のキャリアデザインの基礎的な 3 年間として、王子総合高校での学校生活を位置づける。

(1) 総合学科の良さと総合学科の存在意義を確認できる教育の推進

平成5年2月に第14期中央教育審議会「高等学校教育の改革の推進に関する会議（第4次報告）」において、総合学科を第三の学科と提示されてから、30年経過するが、その先進的な取組は普通科へと流れ、総合学科としての良さや普通科との違いがあやふやになり、中学生から選ばれなくなってきた。今一度総合学科の良さや普通科との差別化を図るために、グラデュエーション・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシーの具現化を図る教育活動を実施する。

(2) 生徒満足度の向上とそれによる王子総合を卒業して良かった言わせられる教育活動の推進

ノーチャイム・ノー放送を基本に、生徒の主体的な活動を支援する。大学進学合格数値実績にとらわれることなく、将来のキャリアをデザインできる教育活動を推進する。

(3) 教職員の満足度の向上とそれによる王子総合へ異動したいと思わせる教育活動の推進

働き方改革を具現化し、教職員と生徒の物心両面の幸福を追求する。そのために、協働性と同僚性のある学校を目指し、組織体として、教職員一人一人が学校経営に参画できる学校を創り上げる。

II 中期的目標と方策

パラダイムシフト（社会の価値観、あり方の劇的な変革期）を意識した学校経営を実行に移す。開校から13年が経過し、都立高校として選ばれる学校へと学校の新たな創造に向けた取組を図る。これまでの過去の成功体験や前例踏襲から脱却し、STEAM教育の実践、SDGsを意識した教育活動の実現だけでなく、AI時代に対応した、これからの我が国を担う「人財育成」をするために、「情報活用能力」や「意思決定能力」の育成やSociety5.0時代に対応したリーディングスキルの向上や「探究活動」を充実させた教育活動を実行する。

そのためには、以下の4つの教育実践に、全教職員が一丸となって取り組んでいく。

- (1) 『「未来の東京」戦略ビジョン』を意識した学校経営を行い、Tokyo スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）の実現を目指す。そのために、これまでの学校組織の在り方を見直し、企画調整会議や職員会議の効率化、「今までとは違う」という発想を排除し、フレキシブルな観点から教職員の意識改革を図る。
- (2) 新学習指導要領に基づきカリキュラム・マネジメントの実践により全教職員が一斉授業の知識注入型教育、「正解主義」「同調圧力」から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」（パッシブからアクティブ）な授業展開を行い、自ら考え、課題解決ができるような学力を育成する。
- (3) 教育活動全体を通して、生徒が活動する場面を多く設定することで、知識・理解、暗記力を問う教育ではなく、思考力・判断力・表現力・創造力・洞察力の育成や「ことの本質を見抜く力」の育成、コンピテンシーベースを常に意識した教育活動を行う。
- (4) 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組を実施し、効果検証を図る。

① 「総合学科の活性化」にある、NPOと連携した「社会人基礎力」向上事業の取組により、キャリア教育のカリキュラム創りと3年間にわたる一貫したストーリー展開を図る。

② 「国際交流・海外派遣の推進」にある海外学校間交流推進校による海外との姉妹校提携と海外修学旅行をはじめとした国際交流の実施。

③ 「グローバル人材の育成に向けた使える英語力の強化」にあるオンライン英会話の実施とTokyo Global Gateway (TGG) の活用による英語によるアウトプット力の育成やグローバルランゲージの学校設定科目の充実。

④ 「体力向上」にあるエンジョイ・スポーツプロジェクト校の指定による生徒の多様なニーズに応える運動機会の設定と健康に対する意識を高め、生活習慣を改善プログラムの実施。

⑤ 「部活動の振興」にあるSport-Science Promotion Clubの指定によるデジタル技術を活用した取組の推進。

III 今年度の取組目標と方策

テーマ 働き方改革の実行と時間（タイム・パフォーマンス）を意識した業務の効率化に向け、「無減代」（無くす・減らす・代用する）によるマネジメントを実施する。

(1) 教育活動の目標と方策

【学校経営・組織マネジメント】

今年度の取組目標	具体的な方策
1 学校組織マネジメントを意識した学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ① 校務分掌を中心とした様々な業務のシンプル化、「見える化」を図り、全教職員が内容を把握できるようにする。 ② マンパワーに頼ることなく、組織（チーム）として課題解決に向けた仕事ができるような計画的な人財育成と人財配置（人事異動）を実施する（学年任せの分掌業務から、組織的な分掌業務へと移管を図る）。 ③ データ・ファクト・ロジックに基づいた学校経営・校務分掌の推進 ④ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中）
2 働き方改革の実現	<ul style="list-style-type: none"> ① 働き方改革の具現化として、「無減代」を意識したマネジメントの実行とプロジェクトチーム（PT）による問題点の洗い出しを図る。 ② 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇15日以上を取得する。 ③ 男性教職員の育児休暇並びに育児短時間制度取得の推進
3 コロナ後の新たな学習環境「創り」の実行	<ul style="list-style-type: none"> ① パラダイムシフト（枠組みの転換）における授業のあり方の検討・オンライン学習等、ICTを活用した学習環境の確保 ② コロナ前の学校行事に戻すのではなく、新たな王子総合の礎となるような学校行事の創設
4 カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ① RPDCAを意識した教育課程の編成 ② 総合学科としての特色ある教科横断型の教育課程の編成 ③ グランドデザインに基づく、全教科・全単元のルーブリックの作成と教科毎に評価規準を統一した観点別評価の実施
5 Tokyoスマート・スクール・プロジェクトの実現	<ul style="list-style-type: none"> ① 費用対効果、時間対効果を考えた教育活動を行うために、Microsoft Office365を活用した、学校評価やアンケート集計等の実施、スタディサプリによる学習補助や部活動指導員のアウトソースを活用する。 ② 職員会議等の会議におけるペーパーレス化と完全な電子起案化の推進 ③ 給与明細の電子化の推進と各種文書のはんこレスの推進
6 特色化を意識した教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒急減期を見越した系列の見直しと特色ある学校設定科目の再編 ② 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の総合学科の活性化の1つとして、NPOと連携した1年次「産業社会と人間」、2年次「人間と社会」、3年次「課題研究」と一貫し総合学科としてのキャリア教育のストーリー化を創り上げる事業構築（「見える化」）の実施 ③ 全校体制による探究活動（キャリア教育）の充実 ④ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の国際交流・海外派遣の推進の1つとして生徒が地球規模で自己の将来を展望できるよう、2,3年次において、多くの生徒が英語以外の外国語（フランス語、中国語、韓国語等）を選択できる環境の充実を図る。 ⑤ 海外学校間交流推進校として、姉妹校提携やオンラインでの交流、海外修学旅行の実現を図る。
7 人財育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規採用教員並びに若手教員を組織的に学校全体で育成を図る。 ② 主任教諭選考並びに管理職選考受験候補者を意識的に育成する。 ③ 授業力向上に向け、授業研究を実施する。 ④ 分掌主任の適正配置により、経営参画を意識させる。 ⑤ 問題点を掌握し、プロジェクトチーム（PT）の立ち上げにより、教職員の意識改革により経営参画を図らせる。 ⑥ 校内研修の充実を図り、服務事故防止や教職員のマネジメント力等の育成を図る。

【学習活動】

今年度の取組目標	具体的な方策
8 「東京型教育モデルの実現」	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験から脱却した主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実践 ② Teams や Forms 等の Office365 を活用した授業実践、及びスタディサプリの課題配信による個に応じた学習指導の実施
9 新学習指導要領に対応した授業展開	① 同一科目担当者毎の評価規準を改め、全定期考査の共通問題化により観点別評価を含めた学習評価の評価規準を統一 ② 新たな科目に対応した教材研究の実施 ③ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の「体力向上」にあるエンジョイ・スポーツプロジェクト校の指定による生徒の多様なニーズに応える運動機会の設定と健康に対する意識を高め、生活習慣を改善プログラムの実施
10 AI時代に対応した学力の育成	① リーディングスキルテストの実施とすべての教科において、読解力を育成するための授業内容の再構築 ② GIGAスクール構想スクールを意識したBYODを中心としたタブレット端末等の活用や Teams 等を活用した授業展開の実施

【進路指導】

今年度の取組目標	具体的な方策
11 1年次からの系統的、組織的な進路指導	① ガイダンス等の丁寧な実施により、生徒の希望する進路実現を図る。 ② 科目選択や模試等を活用し、大学進学希望者への指導の充実を図る。 ③ 資格取得を促進し、個に応じた特定分野についての意欲や能力を高める。 ④ 学年任せではなく、キャリアデザイン部が中心となって組織として一貫した進路指導を行う。 ⑤ キャリアカウンセラーを中心にキャリアデザイン部や学年担任等が緊密に連携して進路相談機能の一層の充実を図る。
12 キャリア教育の重視	① NPO団体や学校外の機関の支援等、外部人材を活用し、総合学科高校としてのキャリア教育の充実を図る。 ② 総合学科としてのミッションだけではなく、社会との接続（トランジション）を意識した「見えない学力」や「見えにくい学力」（コンピテンシー）の育成を図る。

【生活指導】

今年度の取組目標	具体的な方策
13 SNSの適切な利用促進に関する指導の徹底	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNSルール」の徹底を図る。
14 体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底	① いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施するとともに、特に部活動において顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を根絶する体制を構築する。 ② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。

【特別活動・部活動】

今年度の取組目標	具体的な方策
1 5 ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事を通した生徒の主体性の育成	<p>① 担当教員が一方向的に指示を出すのではなく、特別活動や部活動を通じて生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志決定により、問題をよりよく解決していけるよう支援する。</p> <p>② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質の確保と行事終了後は速やかに学習中心の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。</p> <p>③ 特別活動終了後は、必ずリフレクション（振り返り）を行うとともに、Forms 等の活用によりアンケートを実施し速やかに次年度に向けた反省点を見出していく。</p>
1 6 部活動を通した健全育成	<p>① 「部活動に関する活動方針」や文化部・運動部活動ガイドラインに基づき、全部活動が週二日以上完全休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果上げる合理的な活動内容や活動方法等を工夫することで、自宅学習の時間を確保する。</p> <p>② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方を意識した指導を実施する。</p> <p>③ 部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。</p> <p>④ 教職員の加重負担とならぬように、部活動支援員の活用と部活動の今後のあり方を働き方改革の面から検討する。</p> <p>⑤ 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラムの取組の部活動の振興にある Sport-Science Promotion Club の指定によるデジタル技術を活用した取組を推進する。</p>
1 7 「Tokyo Active Plan for students」を踏まえた体力向上	<p>① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。</p> <p>② オリンピック・パラリンピックを契機とした生涯スポーツに親しむ姿勢を育成する。</p>

【安心・安全な環境作り】

今年度の取組目標	具体的な方策
1 8 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成	<p>① 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助の精神を培う。</p> <p>② 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。</p> <p>③ 発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。</p> <p>④ スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。</p>
1 9 危機管理の徹底	<p>① アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、エピペン®やAED演習等、危機管理に努める。</p> <p>② 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、SOSの出し方に関する教育を推進する。</p> <p>③ 学校事故の未然防止(リスク・マネジメント)と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万が一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制により、被害を最小限にとどめる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ④ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待が予想される生徒の安全を確保する。 ⑤ 都教育委員会や警察等の関係機関と連絡を密にし、問題発生時には速やかに全校体制で対応にあたる。
20 保護者との良好な「顔の見える」関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者が安心して学校教育への参画できるよう、保護者会を中心とした情報の共有化を図る。 ② ホームページを活用した保護者向け情報の発信（パスワードをかけた保護者向け文書の掲載） ③ 保護者と学校が、生徒の希望進路実現のために3学年における三者面談の全員実施 ④ 学校評価による保護者の意向の把握

【募集・広報活動】

今年度の取組目標	具体的な方策
21 組織的な募集活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校ホームページ以外にも Twitter やInstagramといったSNSを通じて本校の特色やイメージを提示する等、中学生目線にたった募集活動を実施する。 ② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、学校案内会だけでなく、学習塾の出張説明会等、積極的に広報活動を実施する。 ③ 私立高校を意識した学校案内の刷新、「まなびゅー」やYouTube等の動画の活用等、イメージ戦略を整える。 ④ 学校説明会や学校案内会の広報活動は、総務・国際部だけが行うのではなく、全校体制で、学校行事として経営企画室職員を含めた全教職員が必ず関わりをもつ。
22 ホームページを中心とした広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校情報を適宜ホームページ掲載等、広報活動を充実させる。 ② カウンター機能を重視し、アクセス件数を把握することで、中学生や保護者の動向を探る。 ③ 在校生やその保護者向けに、適切な内容を随時掲載する。

【経営企画室体制】

今年度の取組目標	具体的な方策
23 学校経営への参画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校経営計画に基づき、学校経営に参画し、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。 ② 教員と企画室職員が協働し、積極的な経営参画を図る。 ③ 働き方改革の一環として、「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ICTを最大限活用した業務遂行をする。 ④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。 ⑤ 業務全般を理解するとともに、担当部署のスキルアップを図ると同時に課題意識を常にもち、組織的に業務改善を図っていく。 ⑥ 学校行事や保護者会活動等への積極的な参画。
24 適切な予算執行	<ul style="list-style-type: none"> ① 計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ② 生徒関係だけでなく、教職員の福利厚生面を意識した予算編成を行う。 ③ 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。 ④ 施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。

25 関係団体との連携	① 保護者会との積極的な連携を図り、校務運営を支える。 ② 所轄の警察署や消防署、地域住民や関係機関等と連携した校務運営を図る。
-------------	---

(2) 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標
生徒・保護者満足度	学校評価アンケートとして、生徒の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u> 保護者の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u>
キャリア教育の充実	① 進路決定率 <u>95%以上</u> ② 4年生大学進学者数 <u>100名</u> ③ 大学入学共通テスト出願者 <u>40名</u> ④ 各種資格・検定試験合格者数 <u>250名</u>
募集対策の充実	① 学校見学会・説明会の参加者 <u>2,500名</u> ② 応募倍率（推薦選抜） <u>2.20倍</u> （学力選抜） <u>1.50倍</u> ③ ホームページの1日当たりのアクセス数 <u>1,000回</u> ④ Twitter、Instagram、ホームページの更新回数 <u>合計300回</u>
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 <u>100%</u> ② 校内Wi-Fiを活用したICTによる全教職員による授業実践 <u>100%</u> ③ 全教職員によるOffice365 Teamsの活用実践 <u>100%</u> ④ 電子起案率 <u>100%</u>
働き方改革の実現	① 教職員の夏休消化率 <u>100%</u> ② 教職員の年次有給休暇15日以上取得率 <u>100%</u> ③ 各月の残業時間80時間超の教職員数 <u>0名</u> ④ 男性教職員の育児休暇取得及び育児短時間制度取得者数 <u>1名以上</u> ⑤ 全教職員のテレワーク取得率 <u>100%</u>